

## Popov Island 訪問記 (2011 年 9 月 26 日～28 日 2泊3日)

広島大学 松山 まり子

長年の友人みどりさんからウラジオストック行きを誘われて、9月末ウラジオストックに行きました。ウラジオストックは、来年ウラジオストックに近いルースキ島で APEC 首脳会議が予定されており、島に橋を架ける工事中、町中道路の工事中でした。来年までにきれいに完成するのかしらというスピードです。みなさんに、特に印象の残った Popov Island を報告いたします。

9月22日(木)成田発ウラジオストック行きに乗り込みました。希望は、シベリア鉄道でどこかを観光したいと伝え、相手任せの、のんびり旅行のつもりでした。ところが交通手段はバスが主で、よく歩き回りました。一日中歩いている感じでした。みどりさんの研究仲間のニーナさんの家に宿泊しました。大学院院生の息子パーシャさんとジムさんとの3人で住んでいました。二人は地質学者です。ニーナさんは退職していました。

9月24日(土)ジムさんの案内でポポフ島に行くこととなりました。ウラジオストック港から2時間ぐらいかかる島です。ポポフ島は、地質地図にはまだ載っていない島で、その為に、ジムさんが調査しているようで、観察小屋が建てられていて、どうもそこに宿泊するようだと、みどりさんから聞かされました。フィールド調査の様子をみどりさんから聞いていたので、トイレは外の草原ですとか、覚悟していました。(私はワングルの出身だから何処でも大丈夫ですが)午後出発ですが、郵便局のところで私たちのために何か提出書類を作成、提出のため寄りましたが、とても時間がかかり手続きができないまま、あわてて船着き場へ急ぎました。時間も定員もオーバーしてはいたのですが、ニーナさんは強烈な剣幕で係員をやりこめて、いわゆる袖の下作戦で乗り込めました。あきらかに定員オーバー気味でした。甲板にいるしか場所はなく、1時間位寒くて震えていました。この船が沈没しても、私たち日本人がいたことは分からないかもねと、天に幸運を祈るのみでした。ずいぶんとあわれに見えたのか、ジャンパーを脱いでかけてくれる人がいました。後でわかったのですが、ボブさんで、リナさんという小児科の医師の旦那さんでした。ニーナさんの知り合いで、既に休日をポポフ島で過ごそうとお互い予定を立てていたようです。船を降りると、迎えの車が来ていました。観察小屋と聞いていましたが、トイレ

も水洗でまあまあ、シャワーの設備もあり、ベッドも 2 つありました。隣の部屋がニーナさんとジムさん。反対側から入り口がありそちらにレナさん夫婦。外を回らないとこちらには入れない作りです。外には車が 2 台あり、ナンバープレートがありません。日本車でポンコツ寸前です。この島には警察がなく、交通の取り締まりがなくて、運転免許証のない子どもが運転しているときもあると聞きました。すべての車がナンバープレートなしです。そして本当にほとんどが日本車です。日本では見ることのない、昔の三菱のデリカがたくさん元気よく走り回っていました。ジムさんも運転前には、タイヤに空気をいれ、実に良く整備し、いろんな機械がそろっていました。マイナス 25~40 度の世界で、冬用ではないノーマルタイヤで走るというのです。



ここに 2 泊しました。



出発前の点検です。

そして、びっくりしたのが、電気です。島で自家発電していますが、電気が使えるのが 8 時から 12 時までと 20 時から 24 時までです。朝の 8 時はまだ薄暗いのです。電気が使用されるまでベッドにいました。そして夜の 8 時くらいになり薄暗く料理を作るにも困る位で、電気がきて夕食を食べる感じです。電気がつくるととてもうれしくなりました。

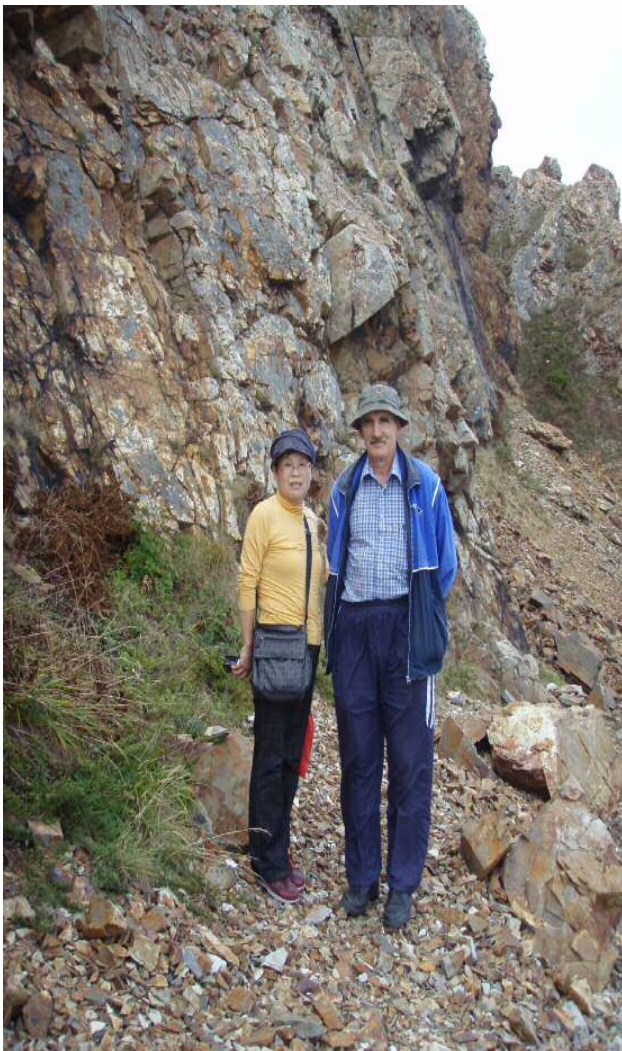
26 日の夕食は、ロシア式バーベキュー シャシリクを食べさせてくれました。ボブさんが既に肉を漬け込んで持って来ていました。夕方、木を集めて炭を作ります。木を燃やしていると、どこからか（軍？）注意が入り、ニーナさんが説明に出向きました。きっとまたニーナさんの剣幕で OK をもらったと思えます。その間も中止せずどんどん火を燃やしていました。大きな金の串に肉を刺しますが、私も手伝おうと試みましたが、結構難しいので、私はやめてボブさんの手際いい串刺しを見ていました。焼くのもうまいのです。炭がかつくと元気がよく熾るとペットボトルの水をかけて火の熾りを、鎮めてじっくりと焼くの

でした。猫も近くまで来ていました。いいにおいでした。私の仕事は、猫を追い払うことでした。串ごと持って食べるのかと思いきや、大きな串から肉を外し、なべに入れてふたをしました。肉と一緒につけ込んでいた小さく切ったタマネギなどはフライパンで炒めて、肉と一緒に食べました。美味でした。話も弾みました。皆さん日本に来たことがあり、特にリナさんは11月の富士山には登る人も少ない時期に、男性は中止したのに、女性3人で登頂した経験がある、エネルギッシュですてきな女性です。シャシリクを食べ、多いにロシアの人たちとすばらしい友好関係が築けたと言えます。結局何の肉だったかわからないで食べました。



食後のデザートはメロンです。とても甘くておいしかったです。隣ニーナさんとジムさん。

25日(日)は、朝から朝食の食材を求めて島の市場へでかけました。牛乳や魚は新鮮でレナさんは、ウラジオストックへ持ち帰っていました。朝食は、レナさんがオムレツを作ってくれました。食べ終わるとミュージアムへ行きました。若い女性が英語で説明してくれました。午後、レナさんたちは帰りました。私たちはもう一泊することになりました。ジムさんとみどりさんと犬3匹で、海岸を散歩しました。海岸にはテントが張っており、軍(?)の見張りが待機していました。若い男性で軽快な音楽が鳴り響いていましたが、怖い感じも持ちました。ここは地震がないので、2億5000万年前の岸壁がそのまま残っているという貴重な島です。岸壁に触れ、感激しました。記念撮影もしました。高山植物のような花も見つけ、とても楽しい散歩でした。





帰るとニーナさんがかわいがっていた子犬が、ぐったりしていて、片方の足をパンパンにはらし毒蛇にかまれたと大騒ぎです。私が看護師なのでどうしたらいいかと聞かれて、困りました。この島には医師も獣医もいません。あるのは薬局だけです。健康管理は自己責任です。夜になるとこの犬は何も食べないで、姿を消しました。26日（月）の朝、死んでしまったと思っていたら、写真の通り元気でした。みんなで大喜びをしました。前足の左がいくぶん腫れています。

朝食後、港の方の海岸を散歩して、島の一番高いところへ案内してくれました。雑草の生い茂った道なき道をジムさんが車を運転して連れて行ってくれました。なんと、見張り番の土台は第一次世界大戦のときに日本軍が建設したものを、再利用していると言われました。私の中では遠い過去の日本史の出来事が、突きつけられたようでした。感心していいのか、日本軍を褒めていいのか複雑な心境でした。日本軍がここまで来ていたのかと、びっくりです。そしてこの島ではいろんな戦争中に使ったものが、今も海岸に転がっているのです。第一次世界大戦がつい最近の出来事のような感覚にさえなりました。

昼食には、クラブ（蟹）を買いに寄ってくれて、食べさせてくれました。石ころだらけの畑からジャガイモを掘り、ボイルして蟹と一緒に食べました。ニーナさんがロシア料理をいっぱい食べさせてくれました。もういいとジェスチャで断るのが、毎日の日課となりました。



近づくと、けたたましく鳴り響くのです。  
この土台が、日本軍が建設したものの。



ポポフ島のごちそう第2弾 (左がみどりさん)

ロシアは個人で旅行するには大変です。ビザが必要ですが、その手続きに時間がかかり過ぎです。みなさんにはツアーをお勧めします。2名以上でツアーが成立した人に会いましたが、2名に日本語のしゃべれるロシア人がついてくれるので、安心です。バスに乗っても案内は、何もありません。個人旅行は困難です。日本の日常が丁寧だなーと、感心します。

大いにリフレッシュできた、夏期特別休暇となりました。